



# SEVENTY-TWO MKII

ユーザーガイド

## 安全にお使いいただくために

### この取扱説明書で使用している危険防止のマーク



このマークは、操作とメンテナンスにおける重要な指示があることを示しています。



このマークは、適切な電圧で機器をしようしないと、感電の恐れがあるという警告です。



このマークは、ご利用出力コネクタが感電を起こす恐れのある電圧を含んでいるという警告です。

### 製品をご使用の際は、以下の使用上の注意に従ってください。

1. 注意事項を必ずお読みください。
2. 注意事項を必ずお守りください。
3. すべての警告に従ってください。
4. すべての注意事項に従ってください。
5. 水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は、乾いた布を使用してください。液体洗剤は、フロントパネルのコントロール装置を損なったり、危険な状態を招いたりする恐れがあるので、使用しないでください。
7. 取扱説明書に従って設置してください。
8. 暖房器具や調理器具、アンプを含むその他の音楽機器など、熱を生じる機器の近くには置かないで下さい。
9. 電源プラグは、危険防止のために、正しく使用してください。アース端子付の電源プラグは、2つのブレードのほかに棒状のアース端子が付いています。これは、安全のためのものです。ご利用のコンセント差込口の形状に合わないときは、専門の業者にコンセントの取り替えを依頼してください。
10. 電源コードを誤って踏んだり、挟んだりしないように注意してください。特にプラグ部、コンセント差込口、本装置の出力部分に注意してください。
11. 付属品は、メーカーが指定しているものを使用してください。
12. 音響機器専用の台車、スタンド、プラケット、テーブルに乗せて使用してください。設置の際、ケーブルの接続や装置の設置方法が、損傷や故障の原因にならないよう注意してください。
13. 雷が鳴っているときや、長時間使用しないときは、プラグを抜いてください。
14. 修理やアフターサービスについては、専用窓口にお問い合わせください。電源コードやプラグが損傷したとき、装置の上に液体をこぼしたり、物を落としたりしたとき、装置が雨や湿気にさらされたとき、正常に動作しないとき等、故障の際は、修理が必要となります。
15. 本装置は、正常に動作していても熱を発生しますので、周辺機器とは最低 15 センチ離し、風通しの良い場所でご利用ください。
16. 本装置をアンプに接続して、ヘッドフォンやスピーカーで長時間、大音量で使用すると、難聴になる恐れがあります。(聴力低下や、耳鳴りを感じたら、専門の医師にご相談ください)。
17. 水がかかるような場所に置かないでください。花瓶、缶飲料、コーヒーカップなど、液体が入ったものを本装置の上に置かないでください。
18. 警告：火災や感電防止のため、雨や湿気にさらさないでください。



このマークのついた製品は、必ず電源プラグをコンセントに差し込む前に、アダプタのアース線を接地してご使用ください。

**inMusic Japan 株式会社 カスタマーサポート部**

東京都港区南麻布 3-19-23 オーク南麻布ビルディング 6 階

[ Web ] [rane-dj.jp/](http://rane-dj.jp/)

[ サポート ] [rane-dj.jp/support](http://rane-dj.jp/support)

## ユーザーガイド

### はじめに

Seventy-Two MKII をご購入いただきありがとうございます。Rane DJ は、あなたにとって音楽がどれだけ大切なものであるかを知っています。私たちは、あなたのパフォーマンスを最高にすることを、唯一念頭に置いて本製品を設計しました。

### 同梱物

Seventy-Two MKII 本体  
電源ケーブル  
Serato NoiseMap™コントロール・バイナルレコード×2  
Serato NoiseMap™コントロール CD×2  
Serato Pitch 'n Time ダウンロード・カード（シリアル番号付き）  
USB ケーブル×2  
Rane ステッカー  
ユーザーガイド / 保証書

### サポート

この製品に関する最新情報（ドキュメンテーション、技術仕様、システム要件、互換性情報など）および製品登録については、[rane-dj.jp](http://rane-dj.jp)をご覧ください。  
その他の製品サポートについては、[rane-dj.jp/support](http://rane-dj.jp/support) をご覧ください。

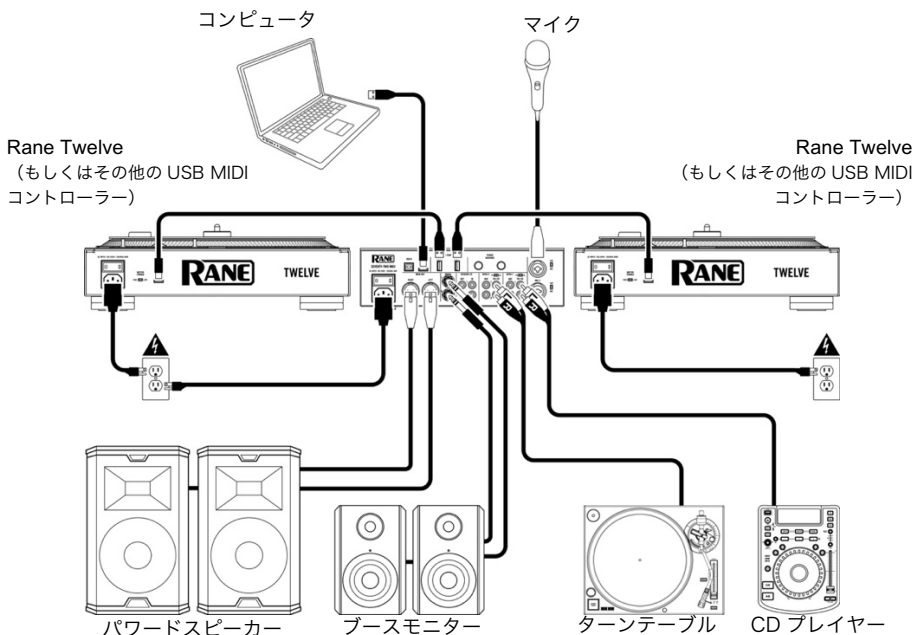
## セットアップ

イントロダクション>同梱物に掲載されていない項目は別売となります。

1. [dj.rane.com](http://dj.rane.com) にアクセスし、アカウントにログインします。(初めての Rane 製品の場合は、アカウントを作成します。) アカウントで、Seventy-Two MKII を登録し、Rane Control Panel をダウンロードします。

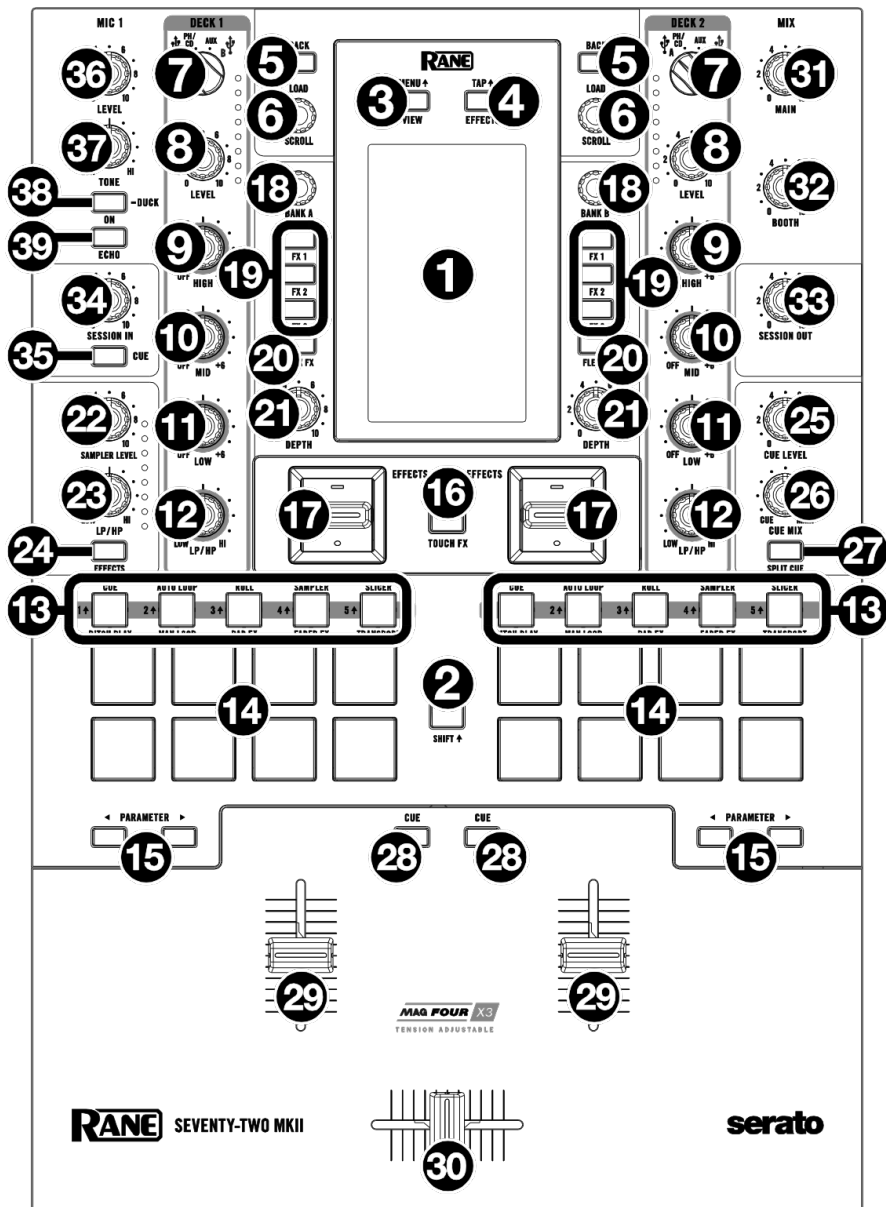
**Windows ユーザーのみ:** Rane コントロールパネルには、Windows に必要なドライバが含まれています。

2. **重要:** パフォーマンス向上のため Seventy-Two MKII のファームウェアがアップデートされることがあります。特に、ソフトウェアを更新した後 (ファームウェアの更新では新しいソフトウェアの機能に対応することができます) は、[dj.rane.com](http://dj.rane.com) にアクセスして、使用可能なファームウェアの更新を確認してください。
3. [serato.com](http://serato.com) から Serato DJ Pro の最新バージョンをダウンロードしてインストールします。
4. USB ケーブルを使用して、Rane Twelve (使用している場合) または他の USB MIDI コントローラーの USB ポートを Seventy-Two MKII の **Twelve/Controller USB** ポートに接続します。
5. オーディオ入力ソース (マイク、ターンテーブルなど) を Seventy-Two MKII に接続します。
6. オーディオ出力デバイス (ヘッドフォン、パワーアンプ、スピーカーなど) を Seventy-Two MKII に接続します。
7. すべてのデバイスを電源コンセントに接続し、適切な順序でデバイスの電源をオンにします。
  - セッションを開始するときは、(1) 入力ソース、(2) Seventy-Two MKII、(3) 出力デバイスをオンにします。
  - セッションを終了するときは、(1) 出力デバイス、(2) Seventy-Two MKII、(3) 入力ソースをオフにします。
8. USB ケーブルを使用して、Seventy-Two MKII の USB ポートとコンピュータを接続します。Serato DJ Pro を開いて開始してください。Serato DJ Pro を Seventy-Two MKII で使用する詳細な方法については、[support.serato.com](http://support.serato.com) にアクセスし、**Rane Seventy-Two MKII** を選択してください。



# 特徴

## トップパネル



- タッチスクリーン**：このフルカラーのマルチタッチ・ディスプレイは、Seventy-Two MKII の現在の操作に関連する情報を表示します。ディスプレイをタッチし、ハードウェア・コントロールを使用してインターフェイスを制御します。詳細については、[オペレーション>タッチスクリーン](#)を参照してください。
- Shift**：このボタンを押し続けると、Seventy-Two MKII の他のサブ機能にアクセスできます。
- View/Menu**：タッチスクリーンの表示をライブラリビューと波形ビュー間で切り替えることができます。詳細については、[オペレーション>タッチスクリーン](#)を参照してください。**Shift**を押しながらこのボタンを押すか、またはこのボタンを4秒間押し続けると、Seventy-Two MKII のメインメニューが表示されます。
- Effects/Tap**：すぐにエフェクトビューが表示されます。**Shift**を押しながら希望のテンポでこのボタンを何回か押すと、チャンネルごとのビート・テンポ・エフェクトのBPM レートが手動で設定されます。
- Back**：ひとつ前の画面に戻ります。ライブラリビューで、このボタンを押すと、ライブラリの最上位の階層に戻ることができます。
- Load/Scroll**：このノブを回してリストをブラウズし、ノブを押すと選択中のトラックがデッキにロードされます。波形ビューでこのノブをタッチすると、タッチスクリーンの表示がライブラリビューに切り替わります。  
**ヒント**：このノブをすばやく2回押すと、両方のデッキに同じトラックをロードすることが出来ます（インスタント・ダブルス）。
- Deck Source**：このノブで、各チャンネルのオーディオソースを設定します：**USB A**または**B**（ソフトウェアのレイヤーで再生されるトラック）、**PH/CD**（リアパネルの**Deck PH/CD In**に接続されたデバイス）、または**Aux**（リアパネルの**Deck Aux In**に接続されたデバイス）に設定します。  
**注**：**PH/CD**を選択した場合は、リアパネルの**PH/CD**セレクタースイッチを正しく設定してください。  
**注**：デッキのコントロールは、**デッキソースセレクターがUSB A または B に設定されている場合にのみ、MIDI 情報を送信します。**
- Deck Level**：対応するチャンネルのプリフェーダー、プリEQ オーディオレベルを設定します。このノブの横にあるメーターは、信号の音量レベルを示します（メーターが赤い部分に到達し「クリッピング」したら音量を下げてください）。
- Deck EQ High**：高音域を調整します。
- Deck EQ Mid**：中音域を調整します。 **注**：すべてのEQ とフィルターコントロールは完全にカットされます。
- Deck EQ Low**：低音域を調整します。
- Deck LP/HP**：デッキに適用されているフィルターを調整します。ノブを反時計回りに回すとローパスフィルターの効果が得られます。ノブを時計回りに回すとハイパスフィルターの効果が得られます。フィルターを無効にするには、フィルターを12時（中央）の位置に設定します。  
**注**：フィルターコントロールのデフォルト設定では各音域が完全にカットされますが、**メインメニュー**にアクセスし、**ミキサー設定 > Filter Setup**の順に設定画面を開くと、**Low Pass Min**や**High Pass Max**が設定出来ます。
- Pad Mode Buttons**：これらのボタンの1つを押すと、対応するパッド・モードにアクセスします。1回押すとメイン（ボタン上部にプリントされた機能名称）機能にアクセスし、もう一度押すとサブ（ボタン下部にプリントされた機能名称）機能にアクセスします。**Shift**とこれらのボタンの1つを押して、カスタム・パッドモードにアクセスします。各モードでパッドを使用する方法については、[オペレーション>パッドモード](#)を参照してください。
- Performance Pads**：これらのパッドは、選択されているパッドモードに応じて各デッキで異なる機能を持ちます。**パッドモード・ボタン**を使ってパッドモードを選択します。  
これらのパッドは、ベロシティ・センシティブで（特定のモードでのみ）、耐久性があり、簡単に演奏できます。各モードでパッドを使用する方法については、[オペレーション>パッドモード](#)を参照してください。
- Parameter**：各パッドモードでさまざまな機能に使用します。**Shift**を長押ししながらこれらのボタンを使用して、セカンダリ・パラメータにアクセスします。
- Touch FX**：タッチスクリーン上のX-Y タッチパッド機能を有効または無効にします。この機能を使用して、さまざまなエフェクト・パラメーターをコントロールできます。詳細については、[オペレーション>エフェクト](#)を参照してください。

17. **エフェクト・トグル**：このトグル・スイッチを奥に倒すと、ソフトウェア・エフェクトと Seventy-Two MKII のフレックス・エフェクトが有効になります。トグルはその位置に固定されます。エフェクトを無効にするには、トグルを中央の位置に戻します。トグルを手前に引くとソフトウェア・エフェクトと Seventy-Two MKII のエフェクトが一時的に有効になり、トグルを放して中央の位置に戻すとエフェクトは無効になります。

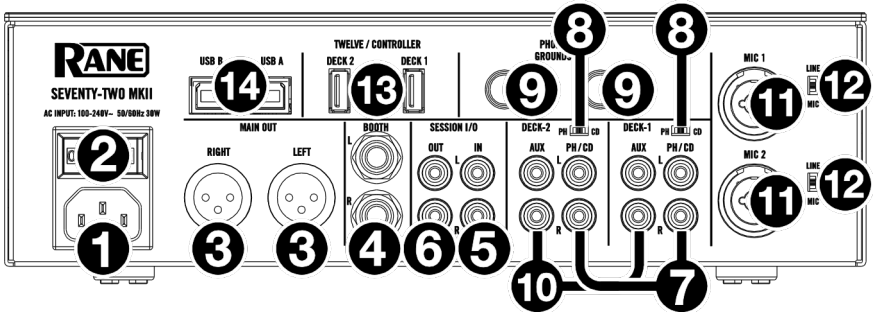
**注**：エフェクト・トグル・スイッチは、取り外し可能です。好みに応じて 180 度回転させた状態で、設置することができます。
18. **Parameter Knob**：さまざまなエフェクト・パラメーターを調整します。選択中のパラメーターは、タッチスクリーン上に白枠で表示されます。
19. **FX 1-3**：3 つのエフェクト・バンクに割り当てられたソフトウェア・エフェクトを有効または無効にします。
20. **Flex FX**：Seventy-Two MKII の内蔵エフェクトを有効または無効にします。
21. **Depth**：適応するデッキの Flex FX の "ウェット/ドライ" の割合を調整します。
22. **Sampler Level**：ソフトウェア・サンプラーの音量を調整します。
23. **Sampler LP/HP**：ソフトウェア・サンプラーに適用されているフィルターを調整します。ノブを左に回すとローパスフィルターの効果が得られます。ノブを右に回すとハイパスフィルターの効果が得られます。フィルターを無効にするには、フィルターを 12 時（中央）の位置に設定します。
24. **Sampler Effects**：ソフトウェア・サンプラーのエフェクトを有効または無効にします。

**注**：サンプラーは、エフェクト・ルーティングメニューで選択する必要があります。

詳細は、**エフェクト**を参照してください。
25. **Cue Level**：キューチャンネルの音量を調節します。
26. **Cue Mix**：ヘッドフォン出力におけるキューチャンネルとプログラムミックスの音量バランスを調整します。左に回すとキューチャンネルだけが聞こえ、右に回すとプログラム・ミックスだけが聞こえます。
27. **Split Cue**：このボタンが**オン**の場合（点灯中）、キューチャンネルがモノラルに変換され、ヘッドフォンの左チャンネルに送られます。同様にプログラム・ミックスもモノラルに変換されてヘッドフォンの右チャンネルに送られ、ヘッドフォンの出力がスプリットされます。**オフ**の場合は、キューチャンネルとプログラム・ミックスがブレンドされた状態で、左右のヘッドフォンから出力されます。どちらの場合も、Cue Mix ノブを使って 2 つの信号の音量バランスを調整します。
28. **Deck Cue**：各デッキをモニタリングするため、プリフェーダー信号をキューチャンネルに送ります。Deck Cue が**オン**の状態、ボタンが点灯します。二つのチャンネルを同時にキューイングする場合は、両方のデッキのキューボタンを押します。
29. **Channel Fader**：対応するデッキの音量を調節します。
30. **Crossfader**：このフェーダーを動かしてデッキ間の音量レベルを調整します。
31. **Main**：**メインアウト**の音量を調節します。このノブの隣にあるメーターは、信号の音量レベルを示します（メーターが**赤い**部分に達し「クリップ」したら音量を下げてください）。
32. **Booth**：ブースアウトの音量を調整します。
33. **Session Out**：セッションアウトの音量を調節します。
34. **Session In**：セッションインの入力レベルを調整します。
35. **Session In Cue**：モニタリングのためにセッションインからキューチャンネルに信号が送信されます。Session In Cue が**オン**の状態、ボタンが点灯します。
36. **Mic 1 Level**：**マイク 1 入力**のゲインを調整します。このノブの横にあるメーターは、信号の音量レベルを示します（メーターが**赤い**部分に達し「クリップ」したら音量を下げてください）。
37. **Mic 1 Tone**：**マイク 1 入力**からのオーディオ信号の低音（低域）と高音（高域）のバランスを調整します。
38. **Mic 1 On/Duck**：このボタンを押して、リアパネルの**マイク 1 入力**を有効、または無効にします。また、ボタンを 2 秒以上長押しすると、マイク使用時に他の音量を 10 dB 下げるダッキング機能が有効になり、ボタンが点滅します。もう一度このボタンを押すとダッキング機能と**マイク 1 入力**が無効になります。

このボタンをもう一度押すと、この機能と**マイク 1 入力**が無効になります。
39. **Mic 1 Echo**：このボタンを押して、**マイク 1 入力**信号に対するエコーエフェクトの有効または無効を設定します。フロントパネルの **Mic 1 Echo** ノブを回して、エフェクトの量を調整します。

## リアパネル



1. **AC IN** : 電源が切られている状態で、付属の電源ケーブルをこの入力に接続し、次に電源コンセントに接続します。
2. **電源スイッチ** : Seventy-Two MKII の電源をオンまたはオフにします。すべての入力デバイスを接続した後、アンプとスピーカーの電源を**入れる前に**、Seventy-Two MKII の電源を入れてください。Seventy-Two MKII の電源を**切る前に**、アンプとスピーカーの電源を切ってください。
3. **Main Out (XLR)** : ラウドスピーカーまたはアンプ・システムに接続します。トップパネルの **Master** ノブで音量を調節します。
4. **Booth Out (TRS)** : ブースモニターまたはブースのアンプ・システムに接続します。トップパネルの **Booth** ノブで音量を調節します。
5. **Session In (RCA)** : 別のミキサーや CD プレーヤー、ドラムマシンなどのラインレベルで出力される機器をここに接続します。信号は直接プログラム・ミックスに送られます。トップパネルの **Session In** ノブで入力レベルを調節します。
6. **Session Out (RCA)** : 別のミキサー、レコーディング・デバイスなどに接続します。プログラム・ミックスはこの出力に送られます。トップパネルの **Session Out** ノブで音量を調節します。
7. **Deck PH/CD In (RCA)** : ターンテーブル、CD プレーヤー、その他のラインレベルのデバイスなどに接続します。デッキの **PH/CD** セレクターを適切な位置に設定し、Deck source ノブを **PH/CD** に設定することでオーディオ信号を再生することが出来ます。
8. **PH/CD セレクター** : 対応するデッキの **PH/CD** に接続されているデバイスに応じて、このスイッチを適切な位置に設定します。フォノレベルのターンテーブルを使用している場合は、フォノレベル信号に必要なアンプの増幅を行う必要があるため、このスイッチを **PH** に設定してください。ターンテーブル、CD プレーヤー、サンプラーなどのラインレベルのデバイスを使用している場合は、このスイッチを **CD** に設定します。
9. **Phono Grounds** : アース線付きのフォノレベルのターンテーブルを使用している場合は、アース線をこの端子に接続します。ハムノイズ等が発生する場合は、アースが接地されていない可能性があります。

**注** : 一部のターンテーブルでは RCA 接続にアース線が組み込まれているため、グラウンド端子への接続が必要ない場合もあります。

10. **Deck Aux In (RCA)** : 外部のラインレベルのオーディオソースを接続します。使用するデッキの **Deck Source** ノブを **Aux** に設定すると、Deck Aux In に入力されたオーディオ信号を再生できます。
11. **マイク入力 1-2 (XLR/6.35 mmTRS)** : マイクまたはラインレベルのデバイスをこのモノラル入力に接続します。モノラル・オーディオ信号は分割され、ステレオ・プログラム・ミックスとキューチャンネルに直接ルーティングされます。ステレオ・ライン入力を行いたい場合は、**Session In** を使用してください。
12. **ライン/マイクセレクター** : マイク入力 1-2 に接続されているデバイスに応じて、このスイッチを適切な位置に設定します。マイクを使用している場合は、このスイッチを **Mic** に設定します。キーボードやサンプラーなどのラインレベルのデバイスを使用している場合は、このスイッチを **Line** に設定します。



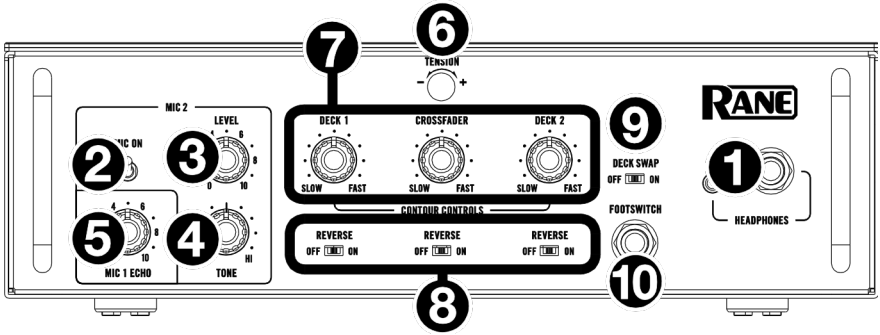
13. **Twelve/Controller USB ポート (USB Type-A)** : USB ケーブルを使用して、Twelve や一般的な USB MIDI コントローラーなどを接続します。

**重要** : USB ドライブをこれらのポートに接続しないでください。デッキソースノブを切り替えると、接続されたコンピュータからドライブが強制的に取り外されます。これにより USB ドライブ上の内容が損傷する可能性がありますので、おやめください。

14. **USB ポート (USB Type-B)** : USB ケーブルを使用して、コンピュータの使用可能な USB ポートに接続します。USB 接続することで、コンピュータとの間でオーディオおよび MIDI 制御情報を送受信します。

**注** : Rane Control Panel を [dj.rane.com](http://dj.rane.com) からダウンロードして、インストールしたことを確認してください

## フロントパネル



1. **ヘッドフォン出力** : (6.35 mm、3.5 mm、TRS) : キューイングおよびミックス・モニタリングのために、ヘッドフォンを接続してください。
2. **Mic 2 On** : オンに設定すると、リアパネルのマイク 2 入力が無効になり、マイク 2 に入力されたオーディオ信号がプログラム・ミックスとキューミックスに直接ルーティングされます。オフに設定すると、マイク 2 入力は無効になります。
3. **Mic 2 Level** : マイク 2 入力のゲインを調整します。
4. **Mic 2 Tone** : マイク 2 に入力されたオーディオ信号の低音 (低域) と高音 (高域) のバランスを調整します。
5. **Mic 1 Echo** : Mic 1 に入力された信号に対するエコーエフェクトの量を調整します。トップパネルの Mic 1 エコーボタンを押して、このエフェクトを有効または無効にします。
6. **Tension Knob** : クロスフェーダーのテンションを調節します。左に回すとクロスフェーダーが軽くなり、右に回すと重くなります。
7. **Contour Controls** : クロスフェーダーカーブのスロープを調整します。ノブを左に回すと滑らかなフェード (ミキシング向け)、右に回すと鋭くカット (スクラッチ向け) されます。センターの位置が、クラブパフォーマンスの典型的な設定です。
8. **Fader Reverse** : このスイッチを **On** に設定すると、対応するフェーダーの方向 (「極性」) を反転します。標準のフェーダー極性を使用するには、**Off** に設定します。
9. **Deck Swap** : このスイッチを **On** に設定すると、Seventy-Two MKII チャンネルの左右のチャンネルフェーダーを切り替えることができます。従来のデッキ構成を使用するには、**Off** に設定します。
10. **フットスイッチ入力** (6.35 mm/TRS) : フットスイッチを接続して、エフェクトを有効または無効にすることができます。この機能を他のファンクションに割り当てることもできます。この入力はバッシブ・コンタクト・クロージャを備えた 3 スイッチ・フットスイッチをサポートしています。

## オペレーション

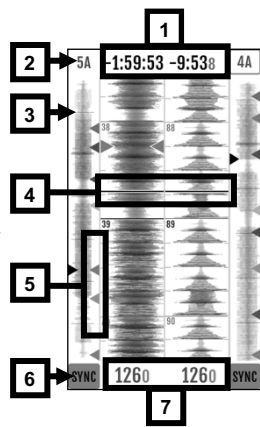
### タッチスクリーン

波形表示とライブラリ表示を切り替えるには、**View/Menu**ボタンを押します。

#### 波形ビュー

波形ビュー(**Waveform View**)では、トラック波形が垂直に表示され、チャンネル 1 は左側、チャンネル 2 は右側に表示されます。大きな波形は、現在のトラックのセクションを表します。小さな波形は現在のトラック全体を表します。

1. **時間**：現在のトラックの残り時間を表示します。
2. **キー/キーロック**：**Shift**キーを押しながらこのアイコンをタップすると、キーとキーロックの表示が切り替わります。キーを選択すると、現在のトラックのキーが表示され、タップするとキーの同期を有効または無効にできます。キーロックを選択すると、キーロック・アイコン（または Serato Pitch'n Time アイコン。インストールされている場合）が表示され、タップするとキーロックが有効または無効になります。いずれかのオプションが有効になっていると、フィールドがハイライトされます。
3. **概要**：小さい波形は、現在のトラック全体の概要を表します。再生中に指で"スクラブ"することができます。また、波形を2本指で掴むようにタッチ操作し、拡大/縮小することが可能です。
4. **ソング・ポジション**：現在のトラックの再生ヘッドポジションです。
5. **ホットキュー**：ホットキューをカラーで表示します。
6. **Sync**：Sync を有効にすると、フィールドが強調表示され、**BPM** インジケータが青色になります。同期を有効または無効にするには、**Shift**キーを押しながらいずれかのチャンネルのアイコンをタップします。
7. **BPM**：現在のトラックの BPM を表示します。



**注**：**Load/Scroll Touch** がオンの時 **Waveform View** で **Load/Scroll** ノブをタッチすると、ライブラリビューが素早く表示されます。オン/オフ設定の詳細については、**メインメニュー**を参照してください。

#### ライブラリビュー

ライブラリビューには、接続されたコンピュータの Serato ライブラリが表示されます。Seventy-Two MKII が 2 台のコンピュータに接続されている場合、それぞれのデッキには最後に割り当てられたコンピュータが表示されます。

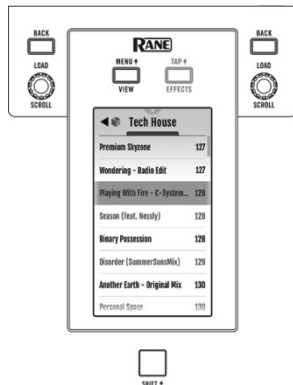
**表示モードを変更する**には、トラックリストビューの上部にあるプルダウン・メニューアイコンを下にスワイプし、目的のモード（**簡易表示**または**拡張表示**）のアイコンをタップします。

**トラックをブラウズするには**、**Load/Scroll** ノブを回します。**すばやくスクロールするには**、**Shift**キーを押しながら **Load/Scroll** ノブを回します。

**クレートを開く**、または**トラックをデッキにロードするには**、**Load/Scroll** ノブを押します。

**階層を戻す**には、**Back** を押すか、タッチスクリーンの左上の領域にある**戻る矢印**を押します。

シンプルなライブラリ表示付き  
タッチスクリーン



## メインメニュー

メインメニューにアクセスするには、**Shift▲**と **View/Menu▲**を押すか、**View/Menu▲**を 4 秒間押し続けます。メインメニューには次のオプションがあります。

**ミキサー設定**：以下の設定を編集するには、このオプションを選択します。

- **オーディオアウト**：メインアウト、マイク 1 クリーンフィード、およびデッキ・バランス設定を編集するには、このオプションを選択します。

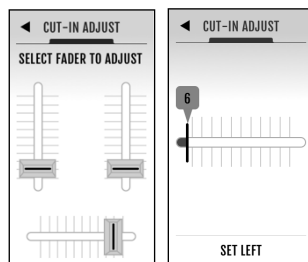
**注**：Clean Feed が On の状態で Serato DJ Pro に録音する場合、Mic 1 はオーディオを通過しません。

- **Deck Settings**：Phono 1/2 Sensitivity、Tone XOver 1/2 と Deck 1/2 Pan の設定を編集します。
- **注**：カートリッジの製造元が推奨するフォノ感度に設定してください。
- **Filter Setup**：デッキ 1/2 レゾナンスとサンプラーレゾナンスの設定を編集します。また、Low Pass Min や High Pass Max で、フィルターノブでカットする音域の設定が出来ます。
- **Pad Setup**：パッドの感度設定を編集します。
- **Headphone Setup**：ヘッドフォン・トーンの設定を編集します。
- **Mic 1 Setup**：マイクエコーのフィードバック(Mic 1 Echo Fdbk)、Mic Duck のスレッシュホールド(Mic 1 Duck Thresh)、Mic Duck のホールド時間(Mic 1 Duck Hold)を設定します。
- **Touch FX Setup**：Button Mode を編集し、Touch FX の設定をします。デフォルトに設定されている Touch FX Mode では、ボタンをタップすると Touch FX 画面が開きます。Touch FX 画面が開いている間はボタンの LED が明るく緑色に光り、開いていない時は暗めの色になります。Tap Mode では、ボタンをタップし選択中のデッキの FX tempo の設定をします。ボタンを押しながら Shift▲を長押しすると Touch FX 画面が開きます。この Mode では、LED ボタンは触れた際にしか光りません。

**Flex FX**：内部 Flex FX 設定を表示および編集するには、このオプションを選択します。

- **Beats Mult.**：このオプションでは、Flex FX タイミングの微調整をします。
  - **Extended Mode**：Flex FX を 1/32 から 32 分音符までのスタンダードなタイミング、または dotted (付点音符) や triplet (三連符) にも設定できる幅広い Mode です。
  - **Simple Mode**：Flex FX を 1/32 から 32 分音符までのスタンダードなタイミングにのみ設定できる、デフォルトの Mode です。
  - **No Dotted Mode**：Flex FX をスタンダードなタイミングか triplet (三連符) には設定できますが、dotted (付点音符) には設定できない Mode です。
  - **No Triplet Mode**：Flex FX をスタンダードなタイミングか dotted (付点音符) には設定できませんが、triplet (三連符) には設定できない Mode です。
- **FX List**：Beats Mult. オプションの下に表示されるエフェクトはすべて編集可能です。
  - **お気に入りのリストからエフェクトを追加または削除するには**、ディスプレイの右側にある円をタップします。円が緑色の場合、エフェクトはエフェクトビューの Flex FX のリストに含まれます。円とエフェクト名がグレー表示の場合、そのエフェクトはリストに表示されません。
  - **内部 Flex FX のデフォルト設定を調整するには**、レンチ・アイコンをタップします。変更が加えられると、ミキサーに保存されます。

**カットイン調整**：カットイン調整セットアップ・メニューにアクセスするには、このオプションを選択します。これは、フェーダーの閉じた位置と開いた位置の間のデッドスペースの量を制御します。調整したいフェーダーを選択し、選択したフェーダーを目的の位置に移動し、**Set** を押して設定を保存します。



**フットスイッチ**：フットスイッチ 1/2/3 の割り当てを設定するには、このオプションを選択します。

- **MIDI** が割り当てられている場合、フットスイッチを踏むと Serato ソフトウェアでプログラムされた MIDI 機能を実行します。
- **FX 1 Latch** か **FX 2 Latch** が割り当てられている場合、フットスイッチを踏むとデッキ 1、またはデッキ 2 のエフェクトがラッチされます。
- **FX 1 Moment** か **FX 2 Moment** が割り当てられている場合、フットペダルを踏んでいる間、デッキ 1、またはデッキ 2 のエフェクトが有効になります。
- **Tap** が割り当てられている場合、フットスイッチを踏むとタッチスクリーン上でフォーカスされているデッキの FX テンポを設定できます。

**ディスプレイ**：タッチスクリーンディスプレイの設定を確認/調整するには、このオプションを選択します。

- **Screen Brightness**：ディスプレイの明るさを調整するには、このオプションを選択します。
- **Scroll Touch**：Waveform View で **Load/Scroll** ノブをタッチし、ライブラリビューを素早く表示させる設定をするには、このオプションを選択します。
- **Pad Mode Display**：Pad Mode ボタンを押した際、Performance Pad ファンクションをタッチスクリーン上に表示するか設定するには、このオプションを選択します。
- **Startup View**：Seventy-Two MKII 起動時に、タッチスクリーンにデフォルト表示させる画面を設定するには、このオプションを選択します。**Waveform** (波形ビュー)、**Library** (ライブラリビュー)、**Effects** (エフェクト) の中から選択可能です。

**注**：Seventy-Two MKII 起動時に波形ビューかライブラリビューをデフォルト表示させるには、予め Serato に接続しておく必要があります。接続されていない状態で起動すると、エフェクトビューがデフォルト表示となります。

## デフォルト設定の復元

**特定のメニュー上でのデフォルト設定を復元する**には、まず Main Menu 上で該当するオプションを選びます。どのオプションにも、一番最後に **Restore Defaults** という項目があります。こちらを選択するとポップアップメッセージが表示されるので、復元を実行する際は **Restore**、実行せず戻す場合は **Cancel** を選択してください。

**Seventy-Two MKII を完全に出荷時の状態に戻す**には、**ファクトリーリセット**が実行できます。Main Menu を開きタッチスクリーンを上方向にスワイプすると、**Factory Reset** という項目があります。こちらを選択するとポップアップメッセージが表示されるので、全ての設定を一度にリセットする場合は **Restore**、実行せず戻す場合は **Cancel** を選択してください。

## エフェクト

### エフェクトビュー

**Effects/Tap** ボタンを押しエフェクトビューを開くと、各デッキに割り当てるエフェクトを FX バンク A と B に設定できます。

エフェクトの各バンクには最大 3 つのソフトウェア・エフェクトと内部 Flex FX が含まれており、デッキ 1、デッキ 2、およびサンプラーに追加してルーティングできる合計 8 つのエフェクトがあります。デフォルトでは、エフェクトはデッキ 1 とデッキ 2 にルーティングされています。

#### エフェクト・ルーティングを変更する：

1. ディスプレイの上部にある青色の **1/2/S** アイコンをタップして、Routing メニューに入ります。
2. エフェクトをルーティングする場所を選択し、**OK** を押すと前のページに戻ります。両方のバンクのエフェクトを同じデッキにルーティングすることができます。

#### エフェクトを追加および使用する：

1. **Effects** ボタンを押し、Effects View に入ります。
2. タッチスクリーンをタップして目的のエフェクトを選択し、**Parameter ノブ** を押して FX セレクトモードに切り替えます。
3. **Parameter ノブ** を回してエフェクトのリストを表示し、ノブを押してエフェクトをスロットにロードします。
4. **FX 1-3** または **Flex FX** ボタンを押して、チェーン内のエフェクトを有効にします。エフェクトはチェーン内で順番に適用されます (**FX1** > **FX2** > **FX3** > **Flex FX**)。
5. **エフェクト・トグル** を使用して、デッキ 1 と 2 にエフェクトを適用します。**トグル** を奥側に倒してエフェクトをホールドするか、**トグル** を手前に引いて、一時的にエフェクトをトリガーします。**サンプラーエフェクト**・ボタンを押して、サンプラーにエフェクトを適用します。

#### ソフトウェアエフェクトを編集する：

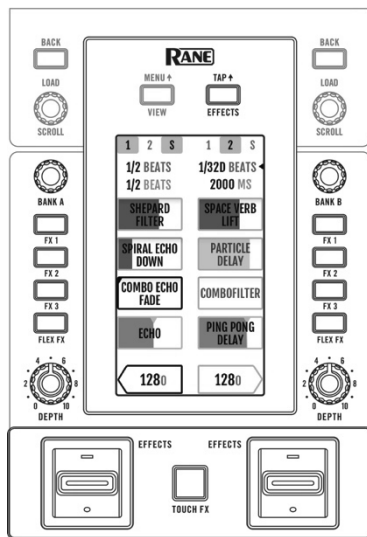
1. **ディスプレイ** 上のエフェクトをタップします。
2. **Parameter ノブ** を回して、選択したパラメーターの編集を開始します。**Parameter ノブ** を押すと、フォーカスしているエフェクトのソフトウェア FX セレクト・モードに切り替わります。

#### 内部 Flex FX を編集する：

1. タップして **Parameter ノブ** のフォーカスを目的のエフェクトに合わせます。目的のエフェクトをダブルタップして、**Parameter ノブ** でデフォルトの Flex FX 設定を調整します。変更が加えられると、ミキサーに保存されます。
2. エフェクトのタイミングを編集するには、**Time** パラメータをタップし、**Parameter ノブ** を回して調整します。

**注：** タイムの調整はバンクごとに行われます。ですが **Beat Breaker** はパターン番号を、**Reverb** はディケイのパーセンテージを調整するため、時間の概念は関係ありません。

**ヒント：** Beat Breaker のパターン番号を選択し、**Shift** を長押ししながら **Parameter ノブ** を押すとパターンが編集できます。**Parameter ノブ** を押したり、回すとブロック間を上下に移行できます。再度 **Shift** ボタンを押しながら **Parameter ノブ** を押すと編集モードは終了します。電源を落とした際にミキサーに保存しておけるのは、パターン番号 11~16 のみとなっております。



## タッチ FX

Touch FX ボタンを押し Touch FX 画面を開くと、ディスプレイを触るだけでデッキ 1 と 2 に割り当てたエフェクトを操作できます。

Touch FX を適用するデッキを選択するには、それぞれのデッキの矢印をタップします。そのデッキにルーティングされたエフェクトの FX ボタンが強調表示されます。

デッキにルーティングされたエフェクトを適用・操作するには、ディスプレイ上で指をスライドさせます。Y 軸で指をスライドさせると、ハイパス（上）またはローパス（下）フィルターが適用されます。X 軸で指を左右にスライドさせると、アクティブな内部 Flex FX の Time パラメーターが変化し、Touch FX 画面の下部にリアルタイムで表示されます。タッチスクリーンから指を離すとエフェクトは無効になり、FX タイミングはスライド操作前の設定に戻ります。デフォルトの Time パラメーターは、Touch FX 画面をタップし、Parameter ノブを回せば編集することができます。

**注：** Beat Breaker/Reverb Flex を操作する際に表示されるパラメーターは、パターン番号/ディケイのパラメーターであり、時間ではありません。

**注：** Beat Breaker の編集画面は Touch FX スクリーン上のパターン番号をタップ > Shift+ と Parameter ノブを押す手順で開けます。詳しくは前述の [エフェクト > エフェクトビュー](#) をご参照ください。

デッキ上で有効になっているフレックス・エフェクトを変更する場合は、以下の手順になります。

エフェクト名をタップ > Parameter ノブを押し FX select mode を開く  
> Parameter ノブを回し、任意のエフェクトを選ぶ

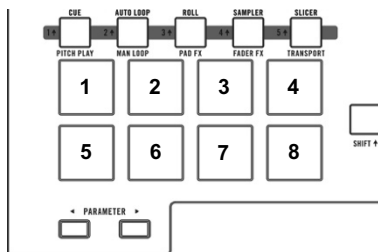
FX select mode を閉じるには、再度 Parameter ノブを押します。

## パッドモード

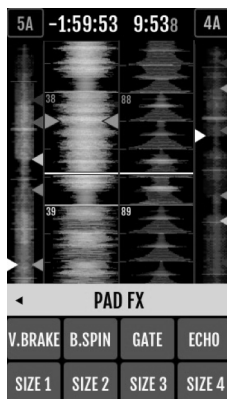
この章では、さまざまなパッドモードについて説明します。各デッキには複数のモードからひとつのモードを選択して使用できる 8 つのパッドが装備されています。

**Pad Mode** ボタンの 1 つを押すと、そのデッキに対応するパッドモードにアクセスします。各パッドモード・ボタンは、押すごとに 2 つのモードを交互に切り替えることができます。

**ヒント**：各パッドモードで、**Shift** キーと **Pad Mode** ボタンのいずれかを押して、追加のモードにアクセスしたり、カスタムモードを使用することができます。



**Pad Mode Display** が ON の状態で **Pad Mode** ボタンを押すと、各 **Performance** パッドに割り当てられた機能が表示されます。この表示は波形ビュー、エフェクトビューまたは Touch FX 画面を開いている際にタッチスクリーン下部に表示されます。この表示は 5 秒経つと消えてしまうので、表示し続けたい場合はタップしてください。この表示機能の On/Off の設定については、前述の **メインメニュー** の項目をご参照ください。



## CUE

キューモードでは、各パッドでホットキューポイントを割り当てたり、設定したホットキューポイントに戻ったりできます。

キューモードにアクセスするには、Cue/Pitch Play を押して白色に点灯させます。

ホットキューポイントを割り当てるには、トラックの任意の位置で消灯しているパッドを押します。ホットキューが割り当てられている場合に、パッドが点灯します（対応する色がある場合）。

ホットキューポイントにジャンプするには、点灯しているパッドを押します。

割り当てられたホットキューポイントを削除するには、**Shift** キーと対応するパッドを押します。

## Pitch Play

ピッチプレイ・モードを使用すると、各パッドはホットキューポイントから異なる音程でトラックを再生します（半音単位で調整可能）。このモードを使用するには、Serato Pitch 'n Time DJ Expansion Pack をインストールする必要があります。ホットキューポイントの割り当て方法については、**キューモード**を参照してください。

**注**：シリアルナンバーの付いた Serato Pitch 'n Time のダウンロードカードは、Seventy-Two MKII に付属しています。

ピッチプレイモードにアクセスするには、**Cue/Pitch Play** を押して**緑色**に点灯させます。

使用するホットキューポイントを選択するには、**Shift**+キーを押しながら**薄暗い**パッドを押します。

パッドが使用するトランスポーズの範囲を選択する

には、**Parameter** ◀▶ ボタンを使用します

（図を参照）。

現在のトラックのキーを上下に調整するには、**Shift**+キーを押しながら **Parameter**◀▶ ボタンを押します。

ホットキューポイントからトラックを

再生するには、点灯しているパッドを押します。

各パッドは、現在のトランスポーズの範囲に応じて、特定のトランスポーズ（半音単位）に対応しています（図を参照）。

トランスポーズされていないパッド（元のピッチ）は**白く**点灯します。

### Up

+4 semitones	+5 semitones	+6 semitones	+7 semitones
0 (original pitch)	+1 semitone	+2 semitones	+3 semitones

### Middle

0 (original pitch)	+1 semitone	+2 semitones	+3 semitones
-4 semitones	-3 semitones 下	-2 semitones	-1 semitone

-3 semitones	-2 semitones	-1 semitone	0 (original pitch)
-7 semitones	-6 semitones	-5 semitones	-4 semitones

## Auto Loop

オートループ・モードでは、各パッドが異なる長さのオートループを有効にしたり、またはリリースします。ソフトウェアのループ・グリッドによってループのサイズが決まります。

オートループ・モードにアクセスするには、Auto Loop/Man Loop を押して、**ダークブルー**に点灯させます。

オートループの 8 つの長さが表示されるように（ソフトウェア内で）、**Parameter**◀▶ ボタンのいずれかを押します。それに合わせてパッドのレイアウトがシフトします。

オートループを前後に動かすには、**Shift**+キーと **Parameter**◀▶ ボタンを押します。



## Manual Loop

Manual Loop Mode では、あらかじめ作成保存したループを再生できます。2つのバンクのパッドレイアウトは同じです。

マニュアルループモードにアクセスするには Auto Loop/Main Loop を押し、緑色に点灯させます。ループを作成するには、パッド 5 を押し、ループイン・ポイントを設定し、パッド 6 を押し、ループアウト・ポイントを設定し、ループを有効にします。

1 Loop 1	2 Loop 2	3 Loop 3	4 Loop 4
5 Set Loop In	6 Set Loop Out	7 Loop On/Off	8 ReLoop

ループを保存するには、ループが有効な状態で、上段 (パッド 1~4) の点灯していないパッドを押します。

ループの作成方法 (Auto Loop/Man Loop など) に関係なく、同じように操作できます。

保存したループを有効または無効にするには、上段 (パッド 1~4) の点灯しているパッドを押します。

保存したループを削除するには、Shift+ キーを押し、上段 (パッド 1~4) の点灯しているパッドを押します。

最後に起動したループを有効または無効にするには、パッド 7 を押します。

最後に起動したループ ("reloop") をすぐに再起動するには、パッド 8 を押します。

ループの長さを半分または 2 倍にするには、Parameter ◀▶ ボタンを押します。

ループを前後に移動するには、Shift+ キーと Parameter ◀▶ ボタンを押します。

## Manual Loop 2

Manual Loop 2 Mode を開くには、Shift+ ボタンを長押ししながら Auto Loop/Man Loop (2+) を押し、黄色に点灯させます。このモードでは、Pad 1~4 はそれぞれ Loop 5~8 の再生/停止ボタンとして機能します。

## Roll

ロールモードでは、各パッドが一時的なループロールを有効にします。パッドを離すとループロールが停止し、トラックが通常通り再生されていたかのように、スムーズに再生が再開されます。

注：Serato DJ Pro Setup メニューで Show Beat Jump Controls が無効になっていることを確認してください。また、ソフトウェアでループのサイズを表示および編集することもできます。

ロールモードに入るには、Roll/Pad FX を押し、水色に点灯させます。

ループロールを有効にするには、パッドを押し続けます。

ループロールの 8 つの長さを表示するには (ソフトウェア上で)、Parameter ◀▶ ボタンのいずれかを押し、操作に合わせてパッドのレイアウトがシフトします。

ループロールを前後にシフトさせるには、それぞれ Shift+ と Parameter ◀▶ ボタンを押します。

## Pad FX

パッド FX モードでは、パッドを使ってエフェクトを

1 Vinyl Brake	2 Backspin	3 Gate	4 Echo
5	6	7	8

コントロールできます。パッドの上段はエフェクトのタイプを選択し、下段はエフェクトの長さを有効にしてコントロールします。

**パッド FX モードにアクセスするには、Roll/Pad FX を押して黄色に点灯させます。**

**Vinyl Brake エフェクトを選択するには、パッド 1 を**押しします。Vinyl Brake エフェクトが下段のパッドで有効になると、ターンテーブルが停止したように音がスローになり、選択した時間にあわせてフェードアウトして無音になっていきます。

**バックスピン・エフェクトを選択するには、パッド 2 を**押しします。

バックスピン・エフェクトが下段のパッドで有効になると、オーディオは逆方向に再生され、ターンテーブルが逆回転したようにスピードアップし、選択した時間にあわせてフェードアウトして無音になっていきます。

**ゲートエフェクトを選択するには、パッド 3 を**押しします。ゲートエフェクトを下段のパッドで有効にすると、選択されたサイズに基づいた時間ベースのゲートをオーディオに適用します。

**エコーエフェクトを選択するには、パッド 4 を**押しします。エコーエフェクトが下段のパッドでトリガーされると、選択したサイズに基づいてエコー音は徐々に減衰しながら無音になっていきます。

**注：エコーエフェクトは他のエフェクトと組み合わせることができます。その他のエフェクトはすべて単体でのみ使用可能です。**

**選択したエフェクトを有効にするには、パッド 5~8 のいずれかを**押しします。各パッドは、パッド 5（最短時間）からパッド 8（最長時間）まで増加して、設定されたサイズで即座にエフェクトを有効にします。エフェクトがトリガーされると、選択したパッドが点滅します。

**注：新しいパッドモードを選択すると、デッキ上の現在有効なパッド FX がすべて無効になります。**

## Sampler

サンプラーモードでは、ソフトウェアのサンプラーを**パッド**でコントロールできます。

各パッドは、指定された音量でサンプルを有効にします（ソフトウェアでサンプルとその音量を割り当てることができます）。

**サンプラーモードに入るには、Sampler/Fader FX を押して紫色に**点灯させます。

**サンプルを割り当てるには、ライブラリ内のサンプルを**ハイライト表示させます。次に **Shift** ボタンを押し、空のサンプラースロットに付随するパッドを押しします。サンプラースロットのボリュームは Serato で調整できます。

**サンプルを演奏するには、点灯しているパッドを**押しします。サンプルが演奏されるとパッドが点滅します。

**サンプルの再生を停止するには、再生中に Shift** ボタンとパッドを押しします。

**サンプル・バンクを移動する場合は、Parameter** ボタンを押しします。

**サンプラーのアウトプットを変更する場合は、Shift** ボタンと **Parameter** ボタンを押しします。

## Fader FX

フェーダーFXモードでは、パッドを使用してデッキのオーディオ信号をミュートしたり、ミュート解除することで、クロスフェーダーの動きをエミュレートします。

クリックとはクロスフェーダーを再生側デッキに向かって動かす(オープン)、離れる(クローズ)動作のことを言います。DJは異なるリズムカルなパターン(多くの場合、スクラッチと一緒に)でクリックを使用して、様々な効果を生み出します。

1 1-Click Flare	2 2-Click Flare	3 3-Click Flare	4 4-Click Flare
5 Transformers	6 2-to-1 Alternator Baby	7 Tri-forms	8 Uzi

**注：**フェーダーFXは、現在のトラックのBPMに基づきます。スクラッチ用のサウンドファイルではBPMが正確に表示されない場合がありますので、その際はBPMを手動で設定してください。

フェーダーFXモードにアクセスするには、**Sampler/Fader FX**を押して、**緑色**に点灯させてください。

フェーダーFXを有効にするには、**パッド1~8**のいずれかを押します。

エフェクトを逆にするには、**Shift▲**を押しながら**パッド1~8**のいずれかを押します。

## Flip

Serato Flip Expansion Packのユーザーは、**Shift▲**キーを押しながら**Sampler/Fader FX (4▲)**を押すと、Flipコントロールにアクセスできます。

Flip Expansion Packを使用していない場合は、カスタムパッドモードを利用できます。

このモードでは、消灯しているパッドにはフリップが割り当てられていません。**青く**点灯しているパッドにはフリップが割り当てられていますが、演奏されていません。**オレンジ色**に点滅するパッドは、フリップが割り当てられ、現在再生中であることを意味します。

Flip 1	Flip 2	Flip 3	Flip 4
Flip 5	Flip 6	No Function	No Function

フリップをパッドに割り当てるには、**点灯していないパッド(1~6)**を押します。

割り当てられたフリップを再生するには、**点灯している青いパッド(1~6)**を押します。

フリップの再生を直ちに停止するには、**Shift▲**キーを押しながら**点灯しているオレンジ色**のパッドを押します。

フリップレコーディングを開始するには、左向きの**Parameter◀**ボタンを押します。

選択したフリップの再生スタートポイントに戻るには、右向きの**Parameter▶**ボタンを押します。

フリップスロットのループを切り替えるには、**Shift▲**キーを押しながら左向きの**Parameter◀**ボタンを押します。

フリップスロットのOn/Offを切り替えるには、**Shift▲**キーを押しながら右向きの**Parameter▶**ボタンを押します。

## Slicer

**重要**：このモードを使用するには、トラックにビートグリッドが設定されている必要があります。

スライサーモードでは、指定された範囲内のビートグリッド上の連続したビートをスライスし、8つのパッドに割り振ります。この8つのパッドを順に押すとフレーズが進むように演奏できます。対応するパッドを押すことでスライスが再生され、パッドを離すと、トラックが通常通り再生されていたかのように、スムーズに再生が再開されます。

Slice 1	Slice 2	Slice 3	Slice 4
Slice 5	Slice 6	Slice 7	Slice 8

スライサーモードにアクセスするには、**Slicer/Transport** を押して赤色に点灯させます。デッキに別のトラックをロードするか、グリッド編集モードを有効にすると、スライサーモードが終了します。

スライスを再生するには、該当のパッドを押します。

スライスのサイズを増減する場合は、**Parameter** ◀▶ ボタンを押します。

再生ヘッドを前後に移動する場合は、**Shift**▲キーと **Parameter** ◀▶ ボタンを押します。

## Transport

トランスポート・コントロールモードでは、パッドはさまざまなトランスポート・コントロールに対応します。このモードにアクセスすると、ソフトウェアは自動的にインターナルモードに切り替わります

(Seventy-Two MKII で Twelve コントローラを使用している場合は、ソフトウェアは常にインターナルモードになります)。

1 Pitch Bend -	2 Pitch Bend +	3 Pitch Fader -	4 Pitch Fader +
5 Keylock INT/REL	6 Sync	7 Cue	8    ▶

トランスポートモードにアクセスするには、**Slicer/Transport** を押して緑色に点灯させます。

**Slicer/Transport** を押して緑色に点灯させます。

一時的にピッチを下げる場合は、**パッド 1** を押します。

一時的にピッチを上げる場合は、**パッド 2** を押します。

ピッチ・フェーダーを下げる場合は、**パッド 3** を押します。

ピッチ・フェーダーを上げる場合は、**パッド 4** を押します。

キーロックを有効または無効にする場合は、**パッド 5** を押します。

インターナルモード (INT) とリラティブモード (REL) を切り替えるには、**Shift**▲キーと**パッド 5** を

押します (リラティブモードに切り替えると、バイナルやコントロール CD を使って再生のコントロールが可能です)。

**Sync** を有効にする場合は、**パッド 6** を押します。

**Sync** を無効にする場合は、**Shift**▲キーと**パッド 6** を押します。

キューポイントにスキップする場合は、**パッド 7** を押します。

トラックを再生または一時停止する場合は、**パッド 8** を押します。

## Slicer Loop

Shift $\blacktriangleleft$ を押しながら Slicer/Transport (5 $\blacktriangleleft$ ) を押すと Slicer Loop モードにアクセスします。パッドの操作はスライサーモードと同じですが、8 スライスのフレーズがループして再生されます。

## カスタム・パッドセット

標準のパッドモードに加えて、Serato DJ Pro の MIDI マッピング機能を使用して、最大 3 つのカスタマイズされたパッドセットを作成できます。

カスタム・パッドセットを作成する：

1. Shift $\blacktriangleleft$ を押しながら、Cue/Pitch Play(1 $\blacktriangleleft$ )、Roll/PadFX(3 $\blacktriangleleft$ )、Sampler/Fader FX(4 $\blacktriangleleft$ )のいずれかを押します。

注：Serato Flip Expansion Pack を購入した場合は、Shift $\blacktriangleleft$ キーを押しながら Sampler / Fader FX (4 $\blacktriangleleft$ ) のいずれかを押すと、カスタム・パッドセットではなくフリップ・コントロールにアクセスします。

2. Serato DJ Pro で、**Setup** メニューを開き、**MIDI** を選択します
3. Seventy-Two MKII を選択し、**Allow Serato DJ Hardware Remapping** が有効になっていることを確認します。セットアップ・ウィンドウを閉じます。
4. Serato DJ Pro ウィンドウで、画面上部の **MIDI** ボタンをクリックしマッピングを開始します。
5. Serato DJ Pro 上で割り当てたい機能をクリックしてから、ハードウェアの任意のコントロールを動かし、マッピングしていきます。

MIDI マッピングの詳細については、Serato DJ Pro のマニュアルを参照してください。

## フェーダー

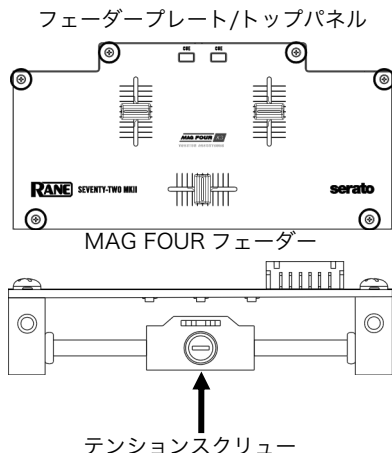
Seventy-Two MKII のチャンネルフェーダーとクロスフェーダーは、フェーダーテンション調整の MAG FOUR フェーダーです。

Seventy-Two MKII フェーダーカーブを調整する：

1. ユニットの電源がオフの状態では、電源が供給されていない状態であることを確認します。
2. ドライバを使用して、トップパネル下部のフェーダーが設置されているフェースプレートのネジを外します（画像参照）。

**注：**フェースプレートを取り外すには、フェーダーキャップを取り外す必要があります。

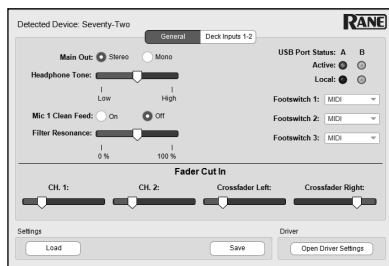
3. ドライバを使用して、各フェーダーのテンション・スクリューを好みに合わせて調整します。



## コントロールパネル

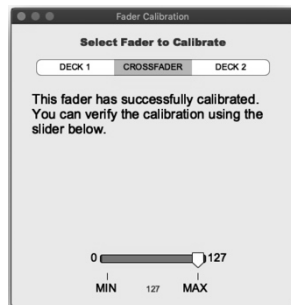
Rane コントロールパネルでは、Seventy-TwoMK II ミキサーの設定を調整し、これらの設定をお使いのコンピュータのファイル（.r72）に保存または読み込みすることができます。設定ファイルを使用すると、さまざまな状況で使用する複数の異なるコントロール設定を保存できます。設定ファイルを管理するには、Rane Control Panel の Settings セクションの General タブに移動します。

- **読み込み(Load)**：保存した Seventy-Two MK II の設定ファイル（.r72）を、コントロールパネルにロードする場合に選択します。
- **保存(Save)**：ミキサーの設定を Seventy-Two の設定ファイル（.r72）として保存する場合に選択します。



また、Rane コントロールパネルを使用し、Seventy-Two MKII のフェーダーの調整をする事も可能です。：

1. Seventy-Two MKII の電源が入っている事と、ミキサーのポートと PC が USB で接続されているのを確認します。
2. Rane コントロールパネルを開きます。
3. **File > Fader Calibration** の順に進みます。
4. 画面の説明に従い、該当のフェーダーを調整してみましょう。  
ここまでくれば、もう準備は完璧です！



# 付録

## 技術仕様

デジタル・オーディオ		
コンバーター	AKM 高品位オーディオ; 24 ビット PCM、48 kHz	
デジタル信号処理	32 ビット倍精度浮動小数点	
ダイナミックレンジ (A-weighted, unity gain)	ADC	114 dB
	DAC	114 dB
	CD 入力からアナログ出力へ	111 dB
	CD 入力から USB 出力へ	114 dB
	USB 入力からアナログ出力へ	114 dB
入力		
マイク 1/2 (コンボ XLR / 1/4 インチ [6.35 mm] TRS、マイク/ライン 切り替え可能)	アナログ・ゲイン 最大入力 ゲイン・トリム	30dB (マイク)、4.75dB (ライン) 0.126Vrms (マイク)、2.3Vrms (ライン) Off to +20 dB (unity at center)
Aux 入力 1/2 (RCA ステレオペア)	最大入力 ダイナミックレンジ (A-weighted)	4 Vrms 114 dB
CD / フォノ入力 1/2 (RCA ステレオペア、 切り替え可能)	CD 最大入力 ダイナミックレンジ (A-weighted)	ライン 4 Vrms 114 dB
	フォノ RIAA 曲線 ゲイン (@ 1 kHz) 最大入力 (@ 1 kHz)	RIAA +0.1/-0.2 dB 30 dB 126 mV
セッション入力 (RCA ステレオペア)	最大入力 ダイナミックレンジ (A-weighted)	4 Vrms 114 dB
出力		
メイン出力 (XLR)	周波数レスポンス 最大出力 THD+N (@ 1 kHz, 4 Vrms)	20 Hz to 20 kHz ( $\pm 0.2$ dB) 8 Vrms 0.002%
ブース出力 (1/4 インチ/6.35 mm TRS)	周波数レスポンス 最大出力 THD+N (@ 1 kHz, 4 Vrms)	20 Hz to 20 kHz ( $\pm 0.2$ dB) 8 Vrms 0.002%
セッション出力 (RCA ステレオペア)	周波数レスポンス 最大出力 THD+N (@ 1 kHz, 2 Vrms)	20 Hz to 20 kHz ( $\pm 0.2$ dB) 4 Vrms 0.002%
ヘッドフォン出力 (1/4 インチ/6.35 mm および 1/8" /3.5 mm TRS)	最大出力電圧 THD+N (@ 1 kHz, 2 Vrms) 出力電力 コントロール	4 V (no load) 0.003% 96 mW (50 ohms) オン/オフ ミューティング

一般	
表示	静電容量方式マルチタッチ・フルカラーディスプレイ 2.1" x 3.7" / 54 x 95 mm (幅 x 高さ) 4.3" / 109 mm (対角線)
パッド	ペロシティ・センシティブ・マルチカラーバックライト・パッド (デッキあたり 8 個、各 10 個のモード) x16
フェーダー	MAG FOUR テンション調整可能なフェーダー (2 チャンネル/ラインフェーダー、1 クロスフェーダー) x3
コネクター	XLR 出力 (メイン) x2 1/4 インチ (6.35mm) TRS 出力 (ブース) x2 RCA ステレオ入力ペア (デッキ 1-2) x4 XLR / 1/4 インチ (6.35mm) TRS 入力 (マイク 1-2) x2 RCA ステレオ入力ペア (セッション) x1 RCA ステレオ出力ペア (セッション) x1 1/4 インチ (6.35mm) TRS 出力 (ヘッドフォン) x1 1/8 インチ (3.5 mm) TRS 出力 (ヘッドフォン) x1 1/4 インチ (6.35mm) TRS 入力 (フットスイッチ) x1 USB タイプ A ポート (デッキ 1-2 USB コントローラ) x2 USB タイプ B ポート x2 IEC 電源ケーブル入力 x1
電源	接続 : IEC 電圧 : 100-240V、50 / 60Hz 消費 : 30 W
寸法 (幅 x 奥行き x 高さ)	11.2 インチ x 17.5 インチ x 4.13 インチ 285 x 445 x 105 mm
重量	12.3 ポンド 5.6 kg

仕様は予告なしに変更されることがあります。

## 商標とライセンス

Rane は、InMusic Brands、Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。  
Serato、Serato DJ Pro、NoiseMap および Serato ロゴは Serato Audio Research の登録商標です。  
Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。  
他のすべての製品名、会社名、商標、または商号は、それぞれの所有者のものであります。



[dj.rane.com](http://dj.rane.com)